

## 第4章 グループインタビュー調査結果

### 1. 子育ての負担感・悩み

#### (1) 仕事と子育て

##### ①仕事と子育ての両立

仕事と子育ての両立に関する意見をみると、たとえ子育て中の女性を優遇してくれる職場であっても、仕事を調整することは難しいといった現状がある。そのため、子どもが小さいうちは、仕事をセーブし子育て中心にシフトしている人もいる。また、妊娠をきっかけに仕事を辞め、子どもが産まれて再就職する際に、仕事と子育てを両立できる職場を選んでいる人もいる。

仕事ができなくなった理由として夫の転勤も大きく影響しており、転勤族の夫を持った場合、仮に転勤先で就職できたとしても、そこで仕事のキャリアを積むことができないといった問題がある。

育児休業制度は、職場の他の人に負担をかける、仕事を長く空けられないといった理由で利用しにくいといった意見があがっている。

##### <仕事の調整が困難>

- 女性が多く優遇してくれる職場だが、仕事量が増えてくると調整できなくなり、帰れなくなる。(保育サービス利用者・関東①)
- 今、パートで働いている職場は、入ったばかりで休みにくい。休むとその分、仕事は溜まっていく。年休は半年経つと取得できる。(子育て支援利用者・関西②)
- 職場を退職した理由は、子どもを育てながら主婦、育児、会社員をするのは大変だったことである。会社が合併したことで、職場環境が大きく変化し、融通が利かなくなったこともある。慣れない職場での仕事、育児はストレスとなり、家庭がもめると思った。これを期に退職を決め、子育てに専念することとした。今は、仕事を辞めたことを後悔している。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 在宅勤務で仕事量は不規則である。子どもが生まれる前からフリーで仕事をしてきた。子どもが生まれてからは、相手先に行く仕事などは控え、仕事量も大きく減らした。しかし、今また増えてきたため、フルタイムで保育所を申請し直しているところである。在宅とはいえ、仕事は9時17時では終わらない。子どもが寝てから深夜にも仕事をする必要がある。体力的にも厳しい。(保育サービス利用者・関東⑤)
- 人材派遣の求人を見たが、延長保育を使っても対応できない。納期が厳しいときなど抜けられないため、リスクが高すぎあきらめた。(保育サービス利用者・関東⑤)
- 上の子が小学校に上がり、下の子が延長保育できるようになると、自分の仕事時間がのびはじめた。(保育サービス利用者・関東①)

○滑り込みで迎えに行き、仕事が残っている時は、仕事場に子どもを連れていくこともある。（保育サービス利用者・関西⑦）

#### <仕事よりも子ども中心に>

○子どもが産まれる前は残業が多く土日出勤もしていたが、子どもが2人、3人となると、子ども中心の生活となる。3人の子どもが2歳、4歳、6歳が一番苦しく、仕事量を一番減らした時期だった。（保育サービス利用者・関東④）

#### <子どもの要望>

○10歳の上の娘が、母親の帰りが遅くなるのはいやだと言っている。（保育サービス利用者・関東④）

#### <自営>

○親で働いているため、仕事に融通がきき、休みもとりやすい。（保育サービス利用者・関西③）

#### <両立できる職場を選択>

○子どもを育てながら仕事を続けられる勤め先を選んだ。今の病院は始まる時間が普通のところよりも遅いため、両立できる。託児所を併設している病院は、市内では、近くでは2箇所しかなかった。（保育サービス利用者・関西⑦）

#### <夫の転勤>

○自分が仕事を辞めたきっかけは、夫の転勤である。新しい土地でも仕事をしていたが、妊娠して退職した。どちらの仕事もおもしろく、辞めたくはなかったが仕方がなかった。（子育て支援利用者・関西⑤）

○夫が転勤族であるため、仮に子どもを預かってくれるところがあって、仕事を始めてキャリアを積むことができたとしても、そこで勤め続けることができない。（子育て支援利用者・関西④）

#### <育児休業制度>

○育児休暇は、1年まではよいが、他の非常勤の方にも負担がかかるため取りにくい。（保育サービス利用者・関西④）

○仕事をしていなかったら、もっと子どもが欲しかった。子どもができると、また仕事を休むことになってしまう。（保育サービス利用者・関西④）

#### <職場の対応>

○会社は経営効率化で子育てに関する支援を削っている。（保育サービス利用者・関東③）

## ②子どもを預けることについて

子どもを預けて働くことに対して、後ろめたさを感じ悩んでいるとの意見が多くあげられた。そのため、思い切って子どもを預けることができずにいる人もいる。

子どもを預けて働いている人は、両親や周囲の人から、預けて働くことに対して何かしら非難された経験のある人が多かった。

#### <自分の意識>

○初めて民間の保育所に預けたとき、子どもがすごく泣いたので、ここまでして預け

てよいのだろうか」と半月くらい悩んだ。(保育サービス利用者・関東①)

○妻には、子どもが小さいうちは自分がみたほうが良いという気持ちと、仕事を持ちたいという気持ちが両方ある。きちんと面倒をみてもらえるのなら、保育所に預けて仕事をしたいと思った。(保育サービス利用者・関東②)

○子どもを預けて羽を伸ばしたいという思いと、そのようなことに対しての罪悪感とのジレンマに悩み、施設を利用できない。(子育て支援利用者・関東④)

○子どもを預けて、もし事故にでも巻き込まれたら、自分は何をしていたのかと責められそうで怖い。(子育て支援利用者・関西⑥)

#### <周囲からの意識>

○子どもは家でみていたほうがよい、預けてまで働くのかと言われることもあり、自分のために働くことを悩むことがある。子どもは保育所で楽しく遊んでいるので、問題はないのではないかと感じる。(保育サービス利用者・関東⑥)

○両親は家で子どもを育てるのが当たり前な世代であるため、保育所に預けて子どもがかわいそうと言っていた。しかし、今は保育園のよいところを理解している。(保育サービス利用者・関西①)

○私ではないが、同じマンションの方で、直接子どもに「保育所に預けられてかわいそう」と家庭で子育てをしている人から言われた人がいる。子どもには言わないで欲しいと憤慨していた。預けて働くことに対して誤解している人が多いと感じる。(保育サービス利用者・関西①)

○子どもを預けてかわいそうと言われてきた。子どもを持って働くことに対して、もっと周りの理解が必要と感じる。子どもに無理をさせているという気持ちがあるため、仕事を辞めようと思ったこともある。(保育サービス利用者・関西④)

○自分の親から子どもを預けてかわいそうと言われたことがある。(保育サービス利用者・関西⑦)

### ③仕事への復帰

一度仕事を辞めてしまうと復帰が難しいという意見が多くの人からあげられた。子どもを持つと再就職する際の条件も悪くなり、フリーで仕事をしている人は、仕事をとることが困難な状況に陥っている。また、ブランクがあることで、仕事のスキルが追いつかず、復帰しにくいということも問題となっている。

また、もうひとつの大きな問題として、先に預け先を確保しておかなければ仕事探しができない反面、保育所の申請には就職証明が必要となるといった点がある。この悪循環の中で、一度仕事を辞めて子どもを持ち、再就職しようとする人は、仕事を持つことができない。

こうした仕事と子育ての両立が難しいことが、子どもを持ちたいという意識を低下させていると実感している人が多い。

中には、若いうちに早く子どもを産んで育てて、将来働きに出たいという人もいた。

#### <仕事の条件の悪化>

○一度仕事を減らすと、次に増やすのは大変である。明らかに前より条件が悪くなっ

ているため、相手もそれでは仕事が出せないとなる。営業が難しい。(保育サービス利用者・関東⑤)

#### <仕事なくなる>

- 子どもが産まれる前は、継続雇用ではなく、委託業務で先方で仕事をしていた。忙しいところへ行くため、夜中に家に帰ってくる感じだった。今はそのような仕事の仕方ができないため、仕事がだんだんなくなっている。聞こえはフリーでいいが、融通が利くようで実はそうでもない。自分でやっていかないと仕事なくなる。流れも速い。(保育サービス利用者・関東⑥)
- 1年前に仕事の話があったが、子どもを預けるところがなかったためできなかった。そこで仕事を引き受けられないと次がこない。そのため、今は仕事がなくとも、子どもを預けて準備しておこうかと思っている。(保育サービス利用者・関東⑥)
- 夫は公務員だが、公務員でさえ男の人が育児休業を取得すると、仕事が干されてしまう。まだまだ理解は進んでいない。(保育サービス利用者・関西④)

#### <仕事のスキルが追いつかない>

- 仕事復帰したいが、コンピュータ関係は技術の進歩が速い。自分のスキルが落ちないように、家で資格試験の勉強をしたりしているが、一度辞めてブランクがあると、派遣で働くことも難しい。(保育サービス利用者・関東③)

#### <フルタイムでは働けない>

- 公立は終わるのが早いので、今は働くつもりはない。いずれは働きたいが、フルタイムは無理だろう。(子育て支援利用者・関西①)

#### <仕事が見つからない>

- 仕事を続けたかったが、働いていたら流産すると診断され、辞めざるを得なかった。一度仕事を辞めると次の仕事を探すのに大きなエネルギーが必要となる。(子育て支援利用者・関西②)
- 正社員の面接に行っても、子どもが熱をだしたらどうするのかと聞かれる。もう1人子どもが欲しいと思うが、大変だとわかっているので無理だと思っている。少子化対策を考えているなら、もう少し違う支援の方法が必要なのではないか。(子育て支援利用者・関西②)
- 一度仕事を辞めると職場復帰できるかわからない。それが少子化に繋がっている。(子育て支援提供者・関西⑦)
- もう一度正社員で働きたいという希望があるため、もう一人子どもを作ろうと思えない。(子育て支援利用者・関西⑤)

#### <預け先を確保できない>

- 働きたくても、先に預け先を見つけておかないと面接にもいけない。(子育て支援利用者・関西④)
- 入所基準が、点数制となっているため、今からパートで働くことにしても、保育所に入園できない。先に保育所の申請には就職証明が必要であり、仕事は保育所が決まっていないと探せないため、結局働けない。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 預けるところがあれば少しでも働きたいと思う。(子育て支援利用者・関西⑦)

#### <働きたい>

- 早く子どもを産んで、働きに出たい。経済状況が良ければ、3人目も欲しい。(子育て支援利用者・関西④)

## (2) 子どもとのかかわり

### ①子育ての悩み、育児ストレス

子育ての悩みは、子どもの育ちへの不安が多くの人からあげられている一方で、子育て支援提供者から、「具体的な子育ての悩みがなくなっている」、「母親が自分自身の悩みに気づいていない」、「子どもより母親自身の悩みが強くなっている」といった意見もあげられている。

育児ストレスは、専業主婦の場合、夫以外の大人と話す機会がなく、子どもとの関係に煮詰まってしまうといったことがあげられている。それが虐待につながる危険性があるとの意見もあった。

ストレスの発散方法は、実家が近い人は自分の母親と話をしたり、友達と話すといったことがあげられている。また、育児ストレスをためないために働くといった人もいる。

専業主婦の自分だけの時間についてみると、確保できても1日に数時間程度という人が多かった。仮に時間ができても、自分のために使うというよりは、子どもがいてはできない家事など行ってしまうとのことであった。専業主婦がリフレッシュする時間を持つことは難しい状況にある。

#### <育ちへの不安>

- 1人目の時、本から学んだ知識で、そのようになっていないとピリピリしていた。  
(保育サービス利用者・関西⑦)
- 子どもが3人いるが、1人目を育てていたときよりも、3人を育てている今の方が楽である。一人目のときは、その子しか見ておらず、本のおり育てていないと不安だったが、今は兄弟が教えてくれたりする。(子育て支援利用者・関東⑥)
- 子どもが一人一人違うということが一人っ子だとわからず、自分のせいにしてしまう。(子育て支援提供者・関東①)
- 早期教育に対する悩み・焦りをもつ母親に対して、ゆっくりでも大丈夫というメッセージを送りたいが上手く届かない。(子育て支援提供者・関東③)
- 三歳児神話が根強く、保育園に空きがあっても幼稚園に入れようとする人が多い。転勤族は特にこの傾向が強く、自分は働けないと思っている人が多いため問題を抱え込んでしまう。(子育て支援提供者・関東⑤)
- 他の子どもの話を聞いて、安心する機会が必要である。(子育て支援提供者・関東②)

#### <漠然とした不安>

- 数年前と比較すると、具体的な子育ての悩みが少なくなっているように感じる。(子育て支援提供者・関西②)
- 自分が何をしたらよいのかわからない、自分で自分の悩みに気づいていない人も多い。子どものことや母親本人の現在・将来をどうしてよいのかわからなくて悩んでいる。(子育て支援提供者・関東⑤)

#### <自分自身の悩み>

- 子どもの悩みよりも、自分の悩みが強い。（子育て支援提供者・関西②）
- 最近、母親が自分自身の話を聞いて欲しいといったものが多い。内容は、自分の親子関係、夫婦関係、子育ての辛さ等である。（子育て支援提供者・関西③）
- 子育てする母親自身が大事にされていない。（子育て支援提供者・関西⑦）
- 話を聞いてほしい、自分に注目してほしいと感じている母親は多い。子どもの相談をしながら、実は本当の悩みは夫婦関係や自分の問題であることもある。（子育て支援提供者・関東④）

#### <大人と話す機会がない>

- 前に住んでいたところでは、夫以外の大人と話すこと機会がなかったため、ストレスがたまっていた。引越しによって近隣の友達もできたため、精神的に救われた（状況が変わらなかったら、虐待もありえたかもしれない）（子育て支援利用者・関東②）
- 夫の帰りが遅いため、大人との会話ができなかった。学生時代の友人も未婚者ばかりなので、子どもの愚痴もこぼせなかった。そのため、煮詰まるときがあった。（子育て支援利用者・関東④）

#### <乳児期のストレス>

- 出産後3～4ヶ月目が精神的にも体力的にも一番辛かった。（子育て支援利用者・関東⑦）

#### <虐待の恐れ>

- 子どもの機嫌が悪く、家にいるとどうにかなりそうで相談に来たという人がいた。（子育て支援提供者・関西④）
- 愛情と虐待は紙一重のところにある。そういうところがわかってもらえていないのでは。（子育て支援利用者・関東②）
- 今の母親はヘルプサインを出すのが苦手である。限界までいかないと助けてと言えない。それが虐待に繋がってきている気がする。（子育て支援提供者・関西⑦）

#### <ストレスの発散方法>

- 隣に母親が住んでいるため、夕飯の時に子どもを一緒に連れて行って、子どもをみてもらうことで育児ストレスを発散している。（子育て支援利用者・関東①）
- 実家が近いので、実家に行って母親との会話により、ストレスを発散している。（子育て支援利用者・関東④）
- 友達と電話で話して、ストレスを発散している。（子育て支援利用者・関東①）
- 1歳になるまでは育児が大変で、ストレスがたまった。それを発散させるために友達に会っていたが、遊びに行ったら行ったでバタバタして大変だった。（子育て支援利用者・関西⑤）
- 子どもといつも一緒にいるよりも、自分が外に出て子どもがいない状況で人と接していることができれば、ストレスが少し発散できると、収入とトントンでも働きたいという人もいる。（子育て支援利用者・関西④）
- 働くことを保育所の申し込みの理由にするだろうが、育児から楽になりたいため保育所に預ける人もいる。（子育て支援提供者・関西⑤）

#### <自分の時間>

- 自分の時間ができても、家にいるといろいろな家事関係でやりたいことがでてしまうので、外に出ないと思う。（子育て支援利用者・関東①）
- 早起きしたり、遅くまで起きていて、自分の時間を作る。アルバム整理や家のこと

をすることが多い。(子育て支援利用者・関東①)

- 早い時間(8時頃)に子どもを寝かせつけ、夫が夜遅く帰宅するまでの時間を自分の時間として利用する。ただだらしがないけれど、子どもが起きているときにはできないような細かい作業をしている。(子育て支援利用者・関東③)
- 完全に自分ひとりになれる時間はない。母親も夫も、一人で子どもを長時間みることはなれていないため(30分～1時間が限度)、世話をしてくれるといっても、自分も一緒にいるときに、という感じである。子どもを置いて出かけることはできない。(子育て支援利用者・関東④)
- 眠そうになったら早い時間でも寝かしつけてしまい、夫が夜遅く帰ってくるまでの時間を利用する。することは、新聞や本を読む、ビデオを観る、メールをうつ等。(子育て支援利用者・関東④)
- 夫が朝早く出かけるので、子どもが起きるまでの1～2時間は自分だけの何もない時間。(子育て支援利用者・関東⑤)

## ②子どもへのかかわり方、しかり方

子どもへの接し方について、母親からは、自信が持てないという内容に関する意見が多くの人からあげられた。また、子育て支援者からは、母親が子どもとの関係をきちんと築くことができなくなっているとの意見があげられている。

具体的にみると、きょうだいが出来たときに、上の子、下の子、それぞれへの接し方について悩んでいるとの意見が多くあげられた。子どもをもう一人持ちたいと思っても、子どもへの関わり方が難しいためにためらっている人もいる。

また、子どもの叱り方について、どの程度叱ってよいのかわからないといった人もいる。子育て支援者からは、子どもを叱ることができない母親が増えているとの意見があげられている。

子育て支援者には、自分流の子育てをする母親が増えており、育児放棄に近い状況が起きていると懸念している人もいた。

### <きょうだい、それぞれへの接し方>

- 下の子が1歳を過ぎた頃から自我が出てきて、きょうだい喧嘩をするようになった。その時に、下の子に言ってもわからないので、上の子ばかり叱りがちである。子どもの叱り方が難しい。子どもと3人での時間が長いので、2年保育を選ばず、3年保育の幼稚園に入れるべきだったかと悩む時もある。(子育て支援利用者・関東①)
- 下の子ができて、長男が精神的に不安定になっている。長男を自分と対等に扱い、怒ることも多くなった。長男は自分に関心を持ってもらいたいのに、下の子のに合わせてしまうため、かまってくれない。(子育て支援利用者・関西⑥)
- もう一人子どもが増えると、育児の大変さよりも長男が不安定になるのではないかと心配である。子どもの精神的な面を支えていくのが大変である。子どものストレスサインに気づかなければならないのが難しい。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 上の子ども中心の生活になりがちで、上の子のために行くところへ、下の子も一緒に連れて行くという感じだった。(子育て支援利用者・関東③)

### <子どもの叱り方>

- 子どもを怒るときに、どのように、どの程度怒っていいのか悩むことが多い。怒られたときに、わざとトイレを失敗するなどの信号を出してくるので、「そこまで怒ってよかったのか」等、子どもとの接し方に悩むこともある。(子育て支援利用者・関東⑤)
- 子どもを叱れない母親が増えてきている。どのように子どもに関わればよいかわからない。(子育て支援提供者・関西⑤)

### <子どもとの関わり>

- 2人の子どもと3人でいると煮詰まるため、友達と遊ぶようにしているが、我に返ると子どもとのスキンシップがとれていないと感じる。友達と遊んでいるからよいと思っていたが、自分と向き合っただけ遊ぶことが少ないことに気づいた。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 子どもの成長への関わり方や、人間関係をどのように作ればよいかかわからない人も多い。(子育て支援提供者・関東④)
- 何をどうして欲しいのかを探ることは難しいが、共通して言えるのは、子どもの扱いがわからない、日々のストレスが鬱積しているということである。(子育て支援提供者・関東⑤)
- おしめ、しつけを保育所任せにしている人が増えている。(子育て支援提供者・関西③)
- 子どもが自分の手に負えない、面倒といった理由で、保育所に子どもを預けて働きにでる母親が増えている。現状から逃げたいために子どもを保育所に入れる。(子育て支援提供者・関西④)
- 母親が子どもというものがわからない。自分で子育てせず、プロに任せてしまうと(離乳食、しつけ等)、親も一緒に育つ時期なのに、それがなくなってしまう。(子育て支援提供者・関西⑦)
- 日々の忙しさから、あまり深く考えないようにしている人もいる。(子育て支援提供者・関東⑤)
- 子どもが危ないことをしたり、危害を加えようとしていても、母親は注意しない。気にせずおしゃべりを続けていたりする。子どもとのコミュニケーションを放棄しているようだ。(子育て支援提供者・関西⑤)

### <活発な子どもへの対応>

- 活発すぎる男の子を抱える母親は、どう対応してよいかを悩んでいることが多い。男の子を十分に遊ばせるスペースがない、面倒をみられないと感じながらも、がんばって自分で面倒をみようとしてしまうこともある。(子育て支援提供者・関東⑤)

### <自分流の子育て、子育ての世代間格差>

- 自分流の子育てをする人が増えている。(夜寝かせるのが遅い、朝起こすのが遅い等)。(子育て支援提供者・関西②)
- 包丁が使えないなど、料理ができない母親が増えている。家庭ならではの味がなくなっており、子どもの味覚、食欲に影響している。(子育て支援提供者・関西②)
- 今の活動を通して、母親の子育てで落とし穴になっているところが見えてきた。世代が違うので一概には言えないが、子どもより自分が大事な人、子どもをペット化している人などが出てきている。(子育て支援提供者・関西②)
- 子どもは抱っこしたら泣きやむと思いきや、ここんでいる母親がいた。子育ての基本をわかっていない人が多い。(子育て支援提供者・関西③)



- 60年代生まれと70年代生まれでは世代の違いが現れる。(子育て支援提供者・関西⑦)
- 子育てサービスを利用することで母親の力を発揮しなくてもよいようになっていると感じる。(子育て支援提供者・関東①)

### ③周囲の目

外で子どもを叱るときに、周囲の目が気になるとの意見が多くの人からあげられていた。また、子連れでの外出では、公共交通機関を利用する際に、白い目で見られたことがある人がいた。

その他、子どもを遊ばせる際に、自分の子どもが元気すぎるために周りに気兼ねしている人がいた。

#### <叱り方>

- 周りの目を気にして、子どもの叱り方を考えてしまう。(子育て支援利用者・関東①)
- 叱り方に対する周囲の目が気になる。(子育て支援利用者・関東②)
- お菓子を欲しがり、だだをこねる子どもに「ダメ」と言うと、通りすがりの人に「買ってあげればいいのに」といわれるのが不快。(子育て支援利用者・関東⑤)
- 理由があつて子どもを叱っているのに、理由を知らずに向けられる他人の白い目がつらい。(子育て支援利用者・関東⑥)
- 子ども叱るときお尻をぶって、子どもが大きな声で「痛い」というと、周りから虐待と間違われるのではないかと不安。(子育て支援利用者・関東⑤)

#### <子連れの外出>

- 子どもを連れての外出は、関西では周りの目は気にならない。逆に声をかけてくれる。たまたまかもしれないが、関東では白い目で見られたことがある。そういう思いをせずに交通機関が利用できたらよい。(保育サービス利用者・関西①)

#### <遊ばせ方>

- 元気過ぎる男の子の母親は、周りに気を遣って、午後3時ごろに広場に来ることもある。(子育て支援提供者・関東⑥)

## (3) 家族、友達との関わり

### ①友達づくり、同年齢の子どもとの関わり

地域には固定グループが出来上がっており、そこへ新しく入っていくことが難しいといった意見が多くの人からあげられていた。子どものために、上手く関係を築かなくてはとプレッシャーに感じている人もいる。

また、子どもに対しては、同年齢の子どもと遊ばせてあげたいというニーズが高く、特に下の子どもは上の子どもが行くところへ連れて行くことが多くなってしまったため、下の子どもが同年齢の子どもを関われる場を求めている人が数人いた。

その他に、働いている人は地域で友達を作りにくい、転勤族の人は引っ越し度に友達を作るのが大変、といった意見があげられていた。

#### <固定グループへの参加しにくさ>

- 会社時代の友達とはつながりがある。友達の作り方が、自分が主体か、子どもが主体かで関係が異なる。子ども関係で仲良くなった親は、グループでまとまっていく。保育所で話していてもそのグループで固まっている。グループ毎に壁を作っていて、話し掛けにくい。その中では弱みを見せられない。グループの種類は、専業主婦、共働きなどで分かれている。(保育サービス利用者・関東③)
- 近所の人との話題で、「そろそろ公園デビューをしないと」と言われ、そういうものなのかと思ってしまった。しかし、公園では既に輪ができており、その中に入らず、わざわざ違う公園へ行った。(保育サービス利用者・関西⑦)
- 子どもが少ないため、子どもを通した人間関係に選択肢がない。親同士の交流も少なくなっている(子育て支援提供者・関西②)
- 上手く母親の仲間に入れないと、子どもも同じ悩みを持つと感じて、子どものために人件関係をきちんと作らなければとプレッシャーを感じてしまう。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 公園には既にグループができていて、その中に入れないため、居場所を求めてくる人がいる。(子育て支援提供者・関東⑥)
- 子育て不安というよりも人間関係の不安を持つことが多い。地域とどう関わってよいのかわからない。(子育て支援提供者・関東③)

#### <地域の同年代の人がいない>

- 地域に同じ年代の子がおらず、仲間がいない。(保育サービス利用者・関東②)

#### <同年齢の友達づくり>

- 職場の託児所も利用しているが(月～土曜日まで開園)、利用している子どもの年齢が低く、3歳くらいで他に変更する人が多い。同年齢の子どもの中で育てて欲しいと思うため、自分たちも保育園に変更した。(保育サービス利用者・関西⑦)
- 上の子中心の生活になりがちだったので、下の子のために活動の場が欲しかった。(子育て支援利用者・関東②)
- 母親は社会から取り残された感覚を持ち、同じ世代の友達が欲しいとのニーズは高い。(子育て支援提供者・関東③)
- 子どもに友達がほしい。自分にも友達がほしい。(子育て支援提供者・関東⑥)

#### <働いている人の友達づくり>

- 働いていると近所に住んでいる人がわからないため、友達を広げる方法がわからない。(保育サービス利用者・関東①)
- 公園デビューは働いているため、あきらめた。(保育サービス利用者・関西④)
- 出産前は仕事をしていたため、近所に知り合いがいなかった。(子育て支援利用者・関東②)
- 育児休暇中の人は地域の中には入っていきにくい。(子育て支援提供者・関東③)

#### <転勤族の友達づくり>

- 夫の転勤により見知らぬ土地にきたため知り合いもなく困った。最初自分で抱えて込んでいた。(子育て支援利用者・関東⑥)

- 結婚して違う土地に引っ越してきた母親は、特に近くに友達がいない。(子育て支援利用者・関西④)
- 転勤族が多く、地域に根を張る暇もなく引っ越してしまう。そのため、いつも馴染めない状況に陥る。その人個人の資質には関係ないのに自信をなくしてしまう。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 他の地域から大阪に転勤してきた人は、言葉の劣等感もある。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 自分自身、出産と同時に引っ越し、新しい土地で、地域のこと、育児のこと何もわからない状況だった。特に、関西弁は言葉の劣等感を感じてしまう。(子育て支援提供者・関西⑦)

## ②夫の協力

夫の子育てや家事への協力についてみると、専業主婦、共働きに関わらず、平日は夫からは協力が得られない、子どもは夫に任せられないとの意見が多くの人からあげられていた。土日など、夫に時間があるときには、意識的に子どものことを任せるようにしている人も多かった。また、妻が働き出したり、地域活動を始めたことが、夫の育児・家事参加のきっかけとなっている人もいる。

夫婦間で関わり度合いに対する意識の差はあるようで、男性側からは「手伝っているつもりだが、妻はどのように感じているかわからない」といった意見があげられていた。

子育て支援者からは、夫は子育てを「補助する」感覚でおり、男性が父親になるための支援も必要だとしている。

### <夫の協力は得られない>

- 夫からの支援は受けられない。夫は忙しく、子育てしたくても平日は何もできない。(保育サービス利用者・関東⑥)
- 夫は子どもに対して、あまり怒らず、いいところだけとっている。自分が専業主婦だからか、子育ては妻の仕事となっている。(保育サービス利用者・関西②)
- 食事の準備は妻の仕事。自分は作らない。(保育サービス利用者・関西③)
- 夫は早く家に帰ってきてても、協力は期待できない。(子育て支援利用者・関東⑤)
- 夫は朝早く出かけ、帰りは遅いため、子どもが起きている時間帯にいない。平日は完全に母子家庭状態である。土曜日にも忙しいと仕事に行く。一番見ていて欲しい時間帯にいない。(子育て支援利用者・関西⑤)
- もう一人子どもが欲しいとは思わない。夫の帰宅が遅いく誰も手伝ってくれない中で、上の子を見ながらとなると大変である。今は両親が同じ市内にいるのでよいが、いつ転勤になるかわからない。誰か支えてくれる土地に行ければよいが、それはわからない。(子育て支援利用者・関西⑤)
- 夫は朝早く出かけ、帰りは遅い。平日は一人で育児をしている。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 夫は子育てに協力的であるが、子どもを病院に連れていってくれるのはとても困った時のみである。(子育て支援利用者・関西⑦)

### <夫に任せられない>

- 夫に子どもを丸1日預けたことはない。不安で預けられない。長時間は無理である。  
(子育て支援利用者・関東①)
- 夫に子どもを預ける際は、万全の整えをしてからでないと出かけられないため、預けにくい。また、きちんとみてくれるか不安(子どもに毛布をかけずに自分が寝ていたりするので)。(子育て支援利用者・関東③)
- 夫が子どもを連れて外出したとき軽装で出ていったので問い詰めると、必要なものは途中で買えばいいようなことを言われたが、そういうやり方もあるなど思った。夫には夫の育児スタイルがある。(子育て支援利用者・関東②)
- 夫に預かってくれるようお願いすれば応じてくれるだろうが、30分程度だろう。夫はオムツの交換もできないため、預けるのは不安である。子どもも父親には言いたいことを言えない(母親に言うようなことを父親には言わない)ので、疲れてしまうのではないか。(子育て支援利用者・関東④)
- 夫に預けるのは不安。預けられたとしても短時間だけ。(子育て支援利用者・関東⑦)
- 男性が子育てパートナーとしての学びをしていない、父親になりきれていない。夫をサポートする場がない。仮に夫向け子育て講座等があっても、参加しないだろう。男性が子育てについて学んだり、語り合う場所がない。(子育て支援提供者・関西⑥)

### <土日は夫も協力>

- 平日は夫の帰りが遅いため、土日は任せるようにしている。平日は全部自分がしているが、朝の送り迎えは交代でしている。お風呂やおむつ交換はしてくれる。土日にご飯を作ってもらったりもしている。(保育サービス利用者・関東⑦)
- 平日は帰りが遅いが、休日には遊んでもらう。みんなで外出するとストレス発散できる。(子育て支援利用者・関東①)
- 土日にいれば、お風呂に入れてくれるくらい。(保育サービス利用者・関東⑥)

### <妻が働いたり、活動を始めたことで夫が協力的に>

- 自分が働き出してから、夫も大変さがわかったようで、育児に協力的になった。自分が家にいたときは、育児は母親がものだと思っていたようだ。家にいると、暇だと思われてしまう。今は早めに帰ってきてくれる。(子育て支援利用者・関西②)
- 自分が趣味のバレーボール等の活動を始め、試合など自分の用事ができたことで、夫に子どもの預かりをお願いしやすくなった。丸1日、夫だけで子どもをみてくれるようになった。(子育て支援利用者・関東⑥)

### <夫と妻の役割分担>

- 自分が夜遅くなるときは、夫が送り迎えしている。(保育サービス利用者・関西④)
- 送り迎えの担当は、日によって異なる。(保育サービス利用者・関西⑤)
- 子どもがいる以上、自分が先に家に帰ってきていたら、食事を作って、食べさせて、寝かしつけている。(保育サービス利用者・関西⑥)
- 帰りが遅くなるとわかっている日は、夫が作れそうなメニューの食材を用意しておく。そして、夫がお迎えに行き、調理し、食べさせ、お風呂に入れ、寝かしつけてくれる。(保育サービス利用者・関西⑦)
- 夫に協力してもらうため、子どもがある程度の年齢になった時、あえてパパっ子にした。夫に大変さを理解してもらうには、手伝ってもらう必要がある。子ども同士が喧嘩しているとき、実際の状況の中に夫に入ってもらい、理解してもらうように

している。(子育て支援利用者・関東⑤)

- 夫も忙しいが、仕事と家のことをどちらも少しずつ削って両立させている感じである。(保育サービス利用者・関東③)
- 夫は育児に協力的である。早く帰ってきてくれたり、遊び相手をしてくれる。(子育て支援利用者・関西①)
- 育児は夫と一緒にしている。帰りは早くないが、みることができる時間は任せている。(子育て支援利用者・関西⑦)

#### <夫と妻の意識の差>

- 自分が、朝に夜ご飯の用意までしている。夫は、自分も子育てに参加していると思っている。かわり度合いに価値観の違いがある。(保育サービス利用者・関西④)
- 子育てには関わっているつもりだが、妻からは、どのように思われているかわからない。お風呂、お迎え、ご飯の準備(月1回程度)を行っている。(保育サービス利用者・関西⑤)
- 夫は悩みについてはあまりわかってくれない。(子育て支援利用者・関東①)
- ストレスがたまって、夫に爆発すると、夫も気を使ってくれるが、しばらくすると忘れて元に戻ってしまう。(子育て支援利用者・関東①)
- 夫は自分が爆発するまで、激しいストレスを感じていたことに気づいていなかった。(子育て支援利用者・関東②)
- 夫は育児を「補助する」感覚でいる。(子育て支援利用者・関東②)
- 子育ての分野は、まだまだ男性が女性の領域に出てくるという感じである。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 夫は妻の悩みを一笑してしまう。(子育て支援提供者・関西⑥)

### ③子育てを助けてくれる人

子育てを助けてくれる人をみると、両親がそばに住んでいる人は、保育園の送り迎えや、子どもが病気の時などに手助けしてもらっている。

また、近所の人や幼稚園・保育園の友達とも協力しあっている人もいる。

一方で、子どもを頼める人がおらず、自分が病気の時も、病院に行かずに我慢している人もいる。

#### <両親>

- 子どもが病気の時、夫は休めないで、近所の両親にかなり頼った。(保育サービス利用者・関東④)
- 定時に帰れないときは、夫の母の会社が近く17時に終わるため、迎えにってもらい、自宅で待ってもらっている。自分と夫の両親とも側に住んでいる。(保育サービス利用者・関東⑦)
- 親と同居しているため、自分が子どもを見ることができないときは、祖母がみられる。(保育サービス利用者・関西②)
- 両親がそばに住んでいるため、自分達が子どもをみられないときはお願いしている。(保育サービス利用者・関西⑤)
- 育児の悩みは、夫婦で話し合ったり、両親に相談している。(保育サービス利用者・

関西⑤)

- 両親が近くに住んでいるため、預かってもらえる。また、義理の妹にも同年齢の子どもがいるため預けやすい。(子育て支援利用者・関西①)
- 自分が病気になった時は、実家の親に来てもらう。(車で1時間くらいのところに住んでいる。)(子育て支援利用者・関西⑤)
- 前もって子どもを預ける必要があるとわかっている場合は、両親にお願いしている。(子育て支援利用者・関西⑥)

#### <近所の人、幼稚園・保育園の友達>

- 近所の人たちも「お互い様」という感覚で預かりあっている。(子育て支援利用者・関東⑥)
- 幼稚園の友達なら、いつも6時くらいまで遊んでいるため、一緒にみてももらえる。(子育て支援利用者・関西①)
- 近所の人に頼めば子どもを預かってくれるだろうが、預けたことはない。(子育て支援利用者・関西④)
- 子どもが2人いるので、病院へ行く時は友達に預かってもらう。逆に自分が預かることもある。お互い様である。ただし、一緒に遊ぶのはよいが、預かるのは嫌だという友達もいるため、その辺は自分で見極めている。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 仕事が伸びたときは、友達に迎えに行ってもらったりしている。(保育サービス利用者・関東①)

#### <頼める人がいない>

- 自分が病気になったときは、頼める人がいないので、病院に行かずに我慢している。(子育て支援利用者・関西③)

### ④祖父母との関係

祖父母との関係をみると、子育て方法の違いに困っている人がいる一方で、祖父母側の意識も変化してきており、新しい子育て方法を学びたいという祖父母世代も増えている。

#### <祖父母との関係>

- 祖父母が父母(自分達)の方針を考慮せず、子ども達を甘やかすため、嫁の立場もあり対処に困っている(目に余るときは夫に意見してもらう)。(子育て支援利用者・関東⑤)
- 祖父母世代には、嫁のよき理解者になりたいと思っている人と、そうでない人がいる。(子育て支援提供者・関西⑥)

#### <祖父母世代の孫育て>

- 嫁姑、母娘関係の世代間の違い等で、祖父母世代も、孫育てに辛さを感じている。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 初めて祖父母になった人の中に、新しい子育て方法を学びたいという人が増えてきている。祖父母世代が子育て支援にボランティアで参加しており、そこで自分の孫に必要なことも学んでいる。(子育て支援提供者・関西⑥)

## (4) 専門的な支援

### ① 専門家の対応

専門家から不安感をあおる配慮のない言葉を投げかけられた経験のある人が多くいた。また、当然持っていると思っていた専門的な知識を持っていない専門家があり、対応が十分でなかったことに不満を感じている人もいた。

子育て支援提供者からは、支援側とサービスを受ける側に意識のギャップを感じているとの意見があげられている。

#### <不安感をあおる言動、配慮のない言葉>

- 不安なことばかり言って、言いつばなしの先生もおり、不信感を感じてしまう。どの立場で子どもをみているのか不安に思うときがある。人質を預けている感じ。(保育サービス利用者・関東①)
- 4ヶ月健診の時、小児科の先生に、発達状態は悪くないのに、「なぜこんなに細いの!」と言われたことがある。かなりショックだった。お医者さんにそういう言い方をされるとショックである。(保育サービス利用者・関西①)
- 病児保育に預けに行くと、「病気なのにかわいそう。こういうときは親がみるのが一番」と、病院の先生から言われた。それは親が一番わかっているのに、どうしても、仕事が休めないからお願いしていることをわかって欲しかった。(保育サービス利用者・関西④)
- ある医療機関で、生まれながらのアザを頭ごなしに虐待ではと言われた。(子育て支援利用者・関東⑤)
- 保健士のアドバイスに過剰に反応してしまう母親がいる。(子育て支援提供者・関東⑥)

#### <指導するといった姿勢>

- 上の子の時、相談しても「お母さん頑張りなさいよ」とだけ言う保健婦がおり、落ち込んだ。下の子の時の保健婦は受け入れてくれる人だった。また怒られる、文句を言われると思って警戒していたが、人によって対応が全然違うと感じた。(保育サービス利用者・関東③)
- 民生委員は、「弱者を支援してあげる」という感じがあるが、当事者の母親が行っている支援は、そのような印象を受けない。(子育て支援提供者・関東③)

#### <専門的な知識>

- 保育所は保育のプロなので、よく泣く子どもでも、専門的な視点から対応してくれて、温かく迎えてもらえるだろうと思ったが、ひどい時は泣き止まないで迎えに来てくださいと言われた。(保育サービス利用者・関東⑤)
- 健常児とのボーダーラインの子どもは、障害の部分を誤解されやすく、聞き分けのない子として片づけられやすい。ひどいと一日中叱られっぱなしのこともある。それだけで本人もパニックになる。ちょっとした対応や人数的なキャパシティ(その時点で補助の先生がいるかどうか)が問題となる。(保育サービス利用者・関東⑤)
- 保健士のアドバイスがマニュアル化され過ぎていて適切でないこともある。(子育て支援提供者・関東⑥)

○保育園の先生によって言うことが違う。（保育サービス利用者・関東①）

#### <支援側と当事者の意識のギャップ>

○当事者の考えやニーズと、サークルのスタッフの考えにギャップが大きいこともある。（子育て支援提供者・関東④）

○母親達と支援者との間に世代間ギャップの問題がある。自分が当事者だった時の経験が薄れてしまっている。（子育て支援提供者・関東④）

○民生委員や児童委員と当事者の間に年齢的な距離感がある。（子育て支援提供者・関東⑥）

## ②子どもの病気、救急医療、小児医療

病院に関する情報不足、夜間や救急時の病院不足が大きな問題となっていた。また、小児科が少ない中で、病院は混んでおり、十分に診察してもらえないといった不満の声もあった。

また、保育園に預けて働いている人は、子どもが病気の時には、夫か妻のどちらかが休むことで対応している人が多かった。

#### <病院に関する情報不足>

○どの病院がいいのか、情報が不足していてよくわからない。今は転々としている。（子育て支援利用者・関東①）

#### <夜間や救急の場合の対応>

○夜間の救急医療に対応してくれる病院がない。（子育て支援利用者・関東②）

○救急外来へ行った翌日に再診を希望したら、専門医がいないと断られた。（他の病院では専門医と連絡をとってくれた）（子育て支援利用者・関東⑤）

#### <病院の対応>

○混んでいる病院は流れ作業のようで、聞きたいことも聞けない。（子育て支援利用者・関西⑤）

#### <保育園の通い始め>

○保育園へ預け始めた頃は、行けば病気をもらってくるという感じで、親子で病院通いをしていた。（保育サービス利用者・関東③）

○働き出した頃、託児所に預けるとすぐに病気になるため、その時は親に来てもらっていた。夫が休むこともある。（子育て支援利用者・関西②）

#### <仕事の対応>

○子どもが病気の時、仕事を休むのは妻と自分で半々程度。（保育サービス利用者・関西⑤）

○子どもが病気の時は、妻か自分のどちらかが休んでいる。基本的に自分が休む。（保育サービス利用者・関西⑥）

○子どもが病気の時、自分と妻が休む頻度は、半々くらい。（保育サービス利用者・関西③）

○子どもが病気で、夫が仕事を休むことはない。子どもが3人いるため、夫に仕事を休んで欲しいと思ったことはあるが、休んでくれない。（保育サービス利用者・関



西②)

○病気の時は困る。自分が仕事を休むか、身内で見てくれる人をお願いする。(子育て支援利用者・関西②)

## (5) 地域の状況

### ①遊び場所

日常の遊び場所がなくて困っている人がいた。雨の日の遊び場にも困っている人は多く、マンションに住んでいる人は、同じマンション内の家を行き来したり、階段で遊んだりしている。

また、治安や環境の悪化によって、子どもを安心して遊ばせておくことができない、といった意見もあげられた。

#### <日常の遊び場所>

- 毎日遊びに行けるような環境がない。(子育て支援利用者・関東⑤)
- 働いていると、外に遊びに行く時間がない。土日は車で遠くに遊びに行くため、近所の遊び場を知らない。(保育サービス利用者・関西①)
- 凶悪事件が起こるなど、人を警戒しなければならない状況になっており、子どもだけで遊ぶことができなくなっている。(子育て支援提供者・関西②)
- 昔は地域で子どもをみていたが、今はどこの誰かわからない人も多く、子どもだけでは安心して外に出せない。(保育サービス利用者・関西④)

#### <雨の日の遊び場所>

- 雨の日はマンション内の子ども同士で遊ぶ。交代でどちらかの家で遊ぶようにしている。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 雨の日は遊ばせるのに困る。マンションの階段を上り下りさせたりする。(子育て支援利用者・関西②)

### ②地域の情報、保育サービスに関する情報

引っ越してきたばかりの時は、子育てに関する情報収集方法がわかりにくい、といった意見があげられている。積極的に近所の人に聞いて回って、情報を収集したという人もいる。病院については、特に口コミ情報で選択する人が多いようだった。インターネットによる情報提供への要望もあがっている。

子育て支援提供者からは、家にこもっている人など、本当に支援を必要としている人に、情報が届いていないといった課題があげられた。

#### <情報収集場所がわからない>

- 子どもが1歳になったときにここに引っ越してきたのだが、その時は子育てについて情報を得る場所がわからず、公園に行くくらいだった。(子育て支援利用者・関

東④)

- 引っ越してきたばかりの時、土地感がないため、いろいろ知りたかったが、区からは行政サービスについての本をもらっただけで、どこを見たらいいのかわからず、参考にならなかった。(子育て支援利用者・関東⑥)

#### <近所の人からの情報収集、口コミ情報>

- 近所の人に細かいことなどいろいろ聞いてまわったことにより、情報を得ることができた。(子育て支援利用者・関東⑥)
- 病院は口コミ情報。引っ越してきた時、どの病院がよいかわからなかったため、友達ができて、よい病院を教えてもらった。(子育て支援利用者・関西⑥)

#### <インターネットによる情報提供>

- インターネットで保育サービスに関する情報を見られるとよい。(子育て支援利用者・関西⑤)

#### <必要な人へ情報が届いていない>

- 本当にサービスを必要としている人に情報が届いていない。ある程度元気でサークル活動をしたい人は保健センターで紹介してもらっている。(子育て支援提供者・関西①)
- 家にこもっている人に、子育て支援の情報は届きにくい。(子育て支援提供者・関西①)
- ポスター・チラシは公民館等、人の集まる場所には置いているが、意識して手に取らないと情報として届かない。(子育て支援提供者・関西①)
- 子育て支援の情報を求めているが、支援が必要な人に、情報を届けることは難しい。(子育て支援提供者・関西⑥)

## 2. 子育て支援サービスニーズ

### (1) 保育サービス

#### ①保育所不足、入所時期

空きのある保育所探しに苦労したという人が多くいた。また、途中入所ができないため、在宅勤務の人などは、その間、仕事を再開できないといった問題もある。

##### <保育所に空きがない>

- 両親とも遠いため、子どもを保育所に入れることができなかつたら、仕事をやめなくてはいけない感じだった。(保育サービス利用者・関東②)
- 働いているお母さん達から、働いていない人がどうして保育所を利用できるのかと文句を言われた。それほど入所待ちの人がいる。(保育サービス利用者・関東③)
- 仕事があったため、とにかく空きのある園を探した。(保育サービス利用者・関東⑤)
- 0歳の時に預けようと思って公立の一時保育を申し込んだが、全然空きがなかった。そこで区の子育て支援に登録し、10ヶ月くらいから保育ママのOGがやっている託児所に預けた(自宅で数人預かっていた)。(保育サービス利用者・関東⑥)
- 普通の保育所にも空きがない。今よりも子どもの人数が増えると、さらにサービスが利用しにくくなるのではないかと不安。(子育て支援利用者・関西②)

##### <途中入所ができない>

- 在宅勤務だと、0歳の途中で預けることはできない。1歳になると一時保育があるが、年度途中の利用は難しい。4月から入所するには、生まれていないと申請できないため、申し込みさえもできなかった。(保育サービス利用者・関東⑥)

#### ②保育料、利用料

保育料と収入の兼ね合いで、子どもを預けて働くかどうかを判断するという人が多く、パートで働く場合、給料のほとんどは保育料でなくなってしまうため、働こうと思えないとの意見が多くの人からあげられた。条件が合えば、いつか仕事をしたいと思っているが、これでは働けない、といった状況にある。

子育て支援提供者より、専業主婦は自分のために自由に使える金額はそれほどないと意見があげられており、専業主婦が自分のために子育て支援サービスを利用することが進まない理由のひとつとなっている。

##### <保育料と収入の兼ね合い>

- 在宅で仕事をしているが、今はまだ準備段階である。保育料との兼ね合いで、本格的に預けるのはもう少し先となりそうだ。(保育サービス利用者・関東⑤)
- 手取りの半分は保育料でなくなる。何のために働いているのかと感じてしまい、経

済的負担は大きい。コストとサービスの内容を比べたことはないが、もう少し安ければよいと思う。(保育サービス利用者・関西①)

- 3人だとそれ程でもないが、1人だと保育料は高い。(保育サービス利用者・関西⑥)

#### <パートで働く場合、保育料でなくなってしまう>

- パートで働いても、給料は保育料でなくなってしまう。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 働いていても、半分は託児所代になってしまう。料金が安い。働きたいという気持ちがあるから働いているが。(子育て支援利用者・関西②)
- パート収入が10万円程度なら、保育料は2~3万円以内がよい。収入の2割程度。それ以上になると働いた意味がなくなる。さらに、外に出たら、化粧品や洋服も欲しくなるため、さらにお金がかかる。(子育て支援利用者・関西④)
- パートだと、パート収入と保育料がほぼ同じになるだろう。(子育て支援利用者・関西⑦)
- パートだと、給料は保育料でなくなってしまう。自分が子どもと離れる時間を作るだけである。育児で疲れるか、仕事で疲れるかの違いである。(子育て支援利用者・関西⑤)

#### <主婦が利用できる範囲>

- 専業主婦は、自由に使える金額はそれほどないものである。専業主婦は自分のために使うお金は出しにくい。(子育て支援提供者・関西⑥)

#### <保育料の支払い方法>

- 託児所は半年くらい利用したが、預け始めは休んだ日数が多く、半月預けられなかったこともある。月単位で託児料金を払っているため、週単位や日数で保育料を支払えるとよい。(子育て支援利用者・関西②)

### ③延長保育

延長保育については、お迎えに間に合わないのも、もっと長くして欲しいと思う反面、子どもを保育所に長く預けることへの影響を心配する気持ちの両面がある。

#### <お迎えに間に合わない>

- 通勤時間は40分程度なので、会社を18時にでないと、お迎えに間に合わない。(保育サービス利用者・関東⑦)
- 勤務時間に融通がきくため、お迎えには間に合うが、延長保育はもう少し長いとよい。(保育サービス利用者・関西③)

#### <残業への対応>

- 妻は残業が多いため、延長保育はフルに使っている。19時までには迎えに行くようにしている。(保育サービス利用者・関東②)

#### <長く預けることへの心配>

- 延長保育は、食事の心配や子どもの気持ちの問題がある。(保育サービス利用者・関西⑤)
- 延長保育は、これ以上お迎えが遅くなっても子どもがかわいそうである。夜7時で

もお腹をすかしている。(保育サービス利用者・関西⑦)

#### ④一時保育、託児サービス

自分の体を休めるために一時保育を利用したことのある人が数名いた。また、きょうだいの用事をすませるために、一時保育を利用したいとのニーズも高い。

ベビーシッターの利用をしたことがない人が多く、知らない人に子どもだけの環境で預けること、他人が家の中に入ることにに対する抵抗感が強い。

##### <自分のために一時的に預かってもらう>

- 自分の体調が悪いため、子どもを一時保育に預けている間に、病院に行ったり、体を休めたりしている。(保育サービス利用者・関東③)
- 妊娠時に長男を3ヵ月程一時保育に預けた。理由はストレス。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 自分が病気の時に預かってくれるところがあるとよい。1回千円くらいであれば。(子育て支援利用者・関西⑤)

##### <きょうだいのために一時的に預かってもらう>

- 上の子の療育サービスを受けているときに、下の子を預かってくれるところがなくて困っている人がいる。(保育サービス利用者・関東⑤)
- 上の子が幼稚園に入ると、親が行事等のお手伝いでかりだされることが多くある。その際、下の子を連れて行くことに戸惑うことがある。(子育て支援利用者・関東③)
- 長男と接する時間を確保するために、1、2時間下の子を見てもらえるところがあるとよい。(子育て支援利用者・関西⑥)

##### <利用回数>

- 自分が利用していたところは月極めだったが、週に2、3回というところもある。回数は決めないで欲しい。(子育て支援利用者・関西⑥)

##### <当日預かり>

- 予約しなくても当日預かってくれるところが近くにあるとよい。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 突発的に病院に行かなくてはならない状況があるので、預かってくれるところがない。(保育サービス利用者・関東③)

##### <ベビーシッター>

- ベビーシッターは、市や会社の契約で来てくれる人でも、その個人を信頼できるかは別の問題である。家に上がられるのに抵抗がある。一緒にいるのが子どものみとなるため心配である。(保育サービス利用者・関西①)
- ベビーシッターは、シッターさんとの信頼関係がないと頼めない。(保育サービス利用者・関西④)
- ベビーシッターは、気楽に頼めないので利用したことはない。知らない人に家の中に入られるのが嫌である。(子育て支援利用者・関西④)
- ベビーシッターは保育料が高い。少しの用事のために何千円も払うのはもったいない。また、自分が見えないところで何をされているかわからないのも嫌である。(子